

実川水系 《赤安沢・トヤマ沢》遡行～《赤安田代》～《黒溶沢》下降

【日 時】 2006年6月17日～18日

【メンバー】 L笹川知恵・山口文嗣・石井幸志・高柳智子・高橋敏夫(写真・記)

棚橋・田村両君が担当する<わらじ始め>は、南会津・帝釈山系の数多い沢の分散である。

1泊2日が5パーティー、日帰りが2Pの28名が参加。私は初々しい新婚の笹川さんがリーダーで、ベテランの山口石井・新入の高柳夫人と実に楽しくも、山菜鱈腹の山行を果たすことが出来た。沢自体はやや単調なゴロが続く溪だが、雪溪を登り詰めた先には素晴らしい<田代>が口を開け、可愛い<ミズバショウ>が歓迎してくれた。

山菜にも詳しいリーダーの指導のもと採取した豊かな山の恵みに満たされた沢旅の宿は<赤谷田代>を縦断した樺林の昭和初期頃だろうか？木材積出しに使ったのであろう作業小屋の跡地だった。

あまり火の手の上がらない焚火を囲み、天ぷら・味噌あえ等で満足満足・・・。

翌朝は200m強の高度をこなして登山道へ飛び出し、<ユキ笹>など収穫しながら、送電線が横切る<黒溶沢>を下降する。幸いな事に登山道よりもずーっと立派な送電線作業道を使わせて頂き、実際は沢下降は僅かで、車止に。体に優しい沢旅が終わった。

【行程】 17日 林道脇 8:15 - 出合 8:55 - 天場 13:40

18日 天場 6:20 - 登山道 7:30 - 送電線十字路 8:40 - 黒溶沢 10:25 - 林道脇 12:25



「矢櫃林道」を<黒溶沢>出合付近まで乗入れ、**実川本流**に下降する。

<赤安沢>出合で遡行準備をする高柳夫人。初遡行に心躍る様子だ。

変化の乏しい溪だが、中流部にはナメ滝も・・・。



中流部<トヤマ手前の溪相>

遡行途中で偶然見付けた小鹿。まだヨチヨチ歩きのバンビちゃん、ジーツと動かない。親にはぐれて絶望しているのだろうか？われわれが去った後、再び親に会えるのを祈るばかり



雪溪が目立つようになった<トヤマ沢・1600m付近>



水量豊かな8m滝。  
右から笹川Lが水を浴びながら果敢に直登。  
山口・高橋・高柳は右から高巻く。



標高1800m付近からは雪溪が溪を覆うよう。この先急激に傾斜が強まるがほぼ雪溪歩きとなり、藪漕ぎに苦勞することなく<赤安田代>に至る。



咲き立ての<ミズバショウ>咲く<赤谷田代>



スポンジのような湿原に神経を使いながら……



翌朝の朝もやの<赤谷田代>